



環境消毒について

R7.11.21大分県南部保健所

本スライドでは、すべて **いらすとや** さんのイラストを使用しています。

説明の前に・・・

【空間(空気)の消毒はやめてください！】



基本的に、空間(空気)の消毒は、あまり意味・効果がありません。
その上・・・



眼に入る(失明)



皮膚炎・手荒れ



呼吸器疾患



火災



お金かかる

あまり効果がない + デメリットが多い = やめるべき！

どうしてもしたいなら「**換気**」してください。

【空間(空気)の消毒はやめてください！】

新型コロナウイルスについて

WHO: 「室内空間で日常的に物品等の表面に対する**消毒剤の(空間)**
世界保健機構 **噴霧や燻蒸をすることは推奨されない**」

「消毒剤を(トンネル内、小部屋、個室などで) **人体に対して空間噴霧することは**
いかなる状況であっても推奨されない」

CDC: 「**消毒剤の(空間)噴霧は、空気や環境表面の除染方法としては不十分であり、**
アメリカ疾病
対策センター **日常的な患者ケア区域における一般的な感染管理として推奨しない**」

厚労省: 「消毒剤の有効かつ安全な空間噴霧方法について、
科学的に確認が行われた例はありません。」

「**人がいる空間への次亜塩素酸ナトリウム水溶液の噴霧については、眼や皮膚**
に付着したり吸入したりすると危険であり、噴霧した空間を浮遊する全てのウイル
スの感染力を滅失させる保証もないことから、絶対に行わないでください。」

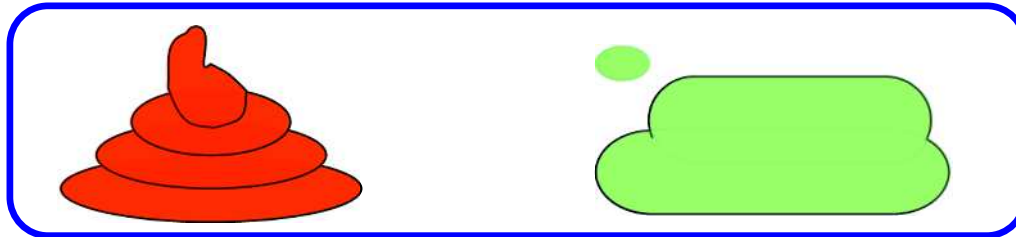
「空間の消毒」は、今すぐ、やめてください！

環境を消毒をする際の大前提

各種消毒は、あくまで

「見える汚れを除去した上で消毒する」が大前提。

- ・~~トイレで便が付着したまま消毒する~~
- ・~~嘔吐物が残っている状態で消毒する~~
- ・~~痰が付着した状態で消毒する~~

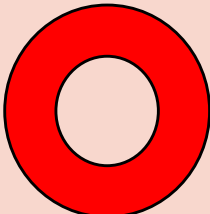
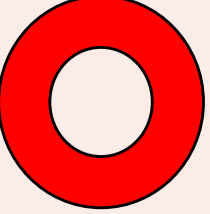
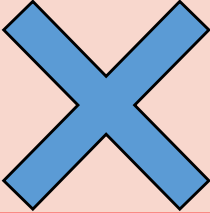
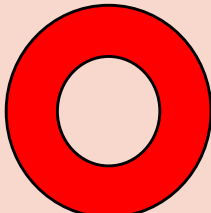
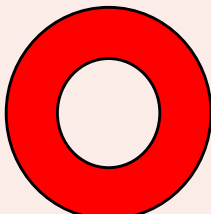
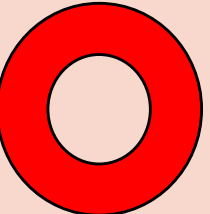


除去後に
消毒する！



まず「汚れを物理的に取り除く」ことが重要。

残存した菌・ウイルスを殺菌・消毒する。

消毒方法	ノロウイルス	新型コロナ インフルエンザ 腸管出血性大腸菌 薬剤耐性菌(VRE, CRE)
熱水 (温度に注意)		
次亜塩素酸ナトリウム ハイター、ブリーチなど (濃度に注意)		
エタノール(アルコール) (濃度に注意)		
第4級アンモニウム塩 塩化ベンザルコニウム(オスバン)等 (濃度に注意)		
(参考) ハンドソープで手洗い (物理的に除去)		

主な消毒方法は、熱と薬剤

1. 熱による消毒

- 80℃～（病原体によって温度は異なる）の熱水
ノロウイルスは85℃以上で1分以上

※洗えるものに利用可能

（給湯器のお湯だと温度が低いため、沸騰させたお湯で）

2. 薬剤による消毒

- 次亜塩素酸ナトリウム 等

※ 薬剤は使用方法（濃度・用途など）を守る

※ 先に汚れを落としてから、殺菌する

消毒時の注意点

- 噴霧しない

→ 消毒薬は「清拭」「浸漬」が基本

消毒剤は対象物に触れることで効果が発揮されるため、環境表面や空間に噴霧するだけでは消毒剤の触れる箇所にムラができ、十分な効果は得られない。



消毒時の注意点

- **濃度と作用時間を守る**
→ どの消毒方法であっても確実に消毒するためには濃度と作用時間が大切

製品に記載された使用上の注意をよく読み、正しく守ること。「消毒用」or「除菌用」の記載もチェック！

使用の際は、濃度や使用期限等を確認すること。
消毒薬の種類によっては遮光性のボトル等を使用し、冷暗所に保管すること。

次亜塩素酸ナトリウム

- ・塩素系漂白剤
- ・商品名は「ハイター」、「ブリーチ」等
- ・概ね、原液は5% (50,000ppm) 程度
- ・消毒対象・用途により、薄めて使用する



	ノロウイルス	新型コロナ、インフルエンザ、腸管出血性大腸菌、薬剤耐性菌 (VRE, CRE)
嘔吐物・便 などの付着場所	<u>0.2%以上</u> (<u>2,000ppm</u> 以上)	0.02%以上 (200ppm以上)
ドアノブ、手すり	0.02%以上 (200ppm以上)	0.02%以上 (200ppm以上)

注意！

一般的に、嘔吐物や糞便による汚染箇所の消毒濃度は0.1% (1000ppm) とされています。しかし、薬剤の保管状況によっては濃度が低下している可能性があるため0.2% (2000ppm) で作成することを推奨しています。

(参考)「ハイター」の希釈目安

「ハイター」と「キッチンハイター」の希釈の目安

(直射日光にあたる場所や高温での保管をしていない場合)

	0.02%(200ppm) 以上*	0.05%(500ppm) 以上*	0.1%(1000ppm) 以上*
生産時の濃度6%の場合	水3リットルに キャップ約0.4杯 (10ml)	水3リットルに キャップ約1杯 (25ml)	水3リットルに キャップ約2杯 (50ml)
購入から3ヶ月以内	水3リットルに キャップ約1/2杯 (12ml)	水1リットルに キャップ約0.4杯 (10ml)	水1リットルに キャップ約0.8杯 (20ml)
購入から1年以内	水3リットルに キャップ約0.7杯 (18ml)	水1リットルに キャップ約0.6杯 (15ml)	水1リットルに キャップ約1.2杯 (30ml)
購入から3年以内	水3リットルに キャップ約1.2杯 (30ml)	水1リットルに キャップ約1杯 (25ml)	水1リットルに キャップ約2杯 (50ml)

3分の1に
低下

(キャップ1杯は約25ml)

* 次亜塩素酸ナトリウム濃度

出典: 花王HP(<https://www.kao.com/jp/qa/detail/18916/>)

ノロウイルスの場合

消毒液の作成方法（原液濃度5%使用）

対象物・濃度 作りたい量	嘔吐物・下痢便等	ドアノブ・手すり等
	0.2% (2000ppm)	0.02% (200ppm)
500ml (0.5リットル)	20ml + 水480ml	2ml + 水498ml
1000ml (1リットル)	40ml + 水960ml	4ml + 水996ml
2000ml	80ml + 水1920ml	8ml + 水1992ml
3000ml	120ml + 水2880ml	12ml + 水2988ml
4000ml	160ml + 水3840ml	16ml + 水3984ml
5000ml (5リットル)	200ml + 4800ml	20ml + 水4980ml

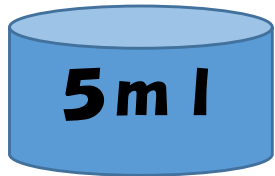
次亜塩素酸ナトリウムの希釈方法（計算式）

$$\frac{\text{作りたい量 (ml)} \times \text{作りたい次亜塩素酸ナトリウム液の濃度 (\%/100)}}{\text{原液の次亜塩素酸ナトリウム液の濃度 (\%/100)}}$$

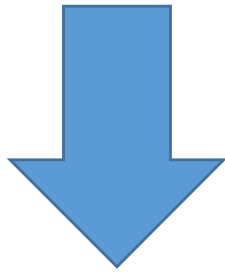
＝ 水に加える
＝ 原液の量 (ml)

0.2%の濃度の消毒液の作り方(2L) 例

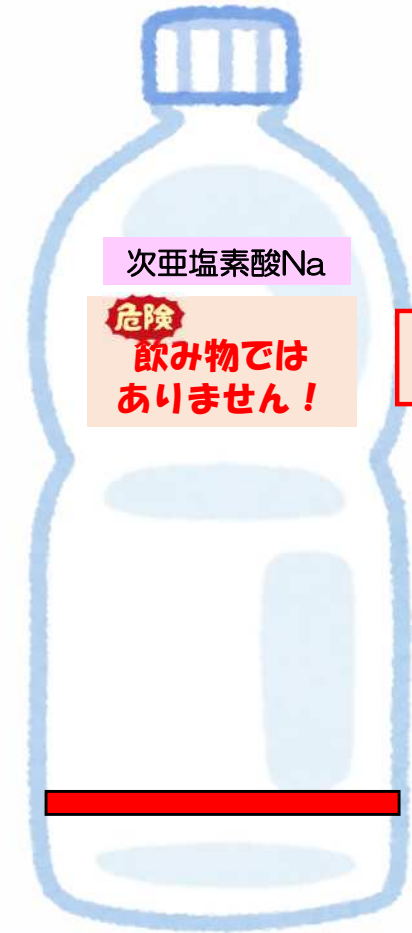
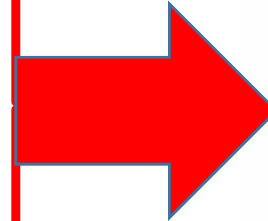
5%次亜塩素酸ナトリウム液80mL



ペットボトルのふた
約**16**杯分



2Lペットボトルに上記の量を入れた後、水を入れて希釈する



(例) 2Lの調製であれば、あらかじめ80mlの位置にラインを入れておくと、作る時に簡単です

次亜塩素酸ナトリウム

取り扱い時の注意点

○換気をする

○手袋、マスクを着用する



○次亜塩素酸ナトリウムで清拭後、水拭きをして乾燥させる

(水拭きをしないと、変色や金属のさびの原因になる)

必ず換気！



次亜塩素酸ナトリウム

取り扱い時の注意点

○口の近くで噴霧しない（吸引すると有害）



○光や高温に不安定なので、薄めた液の作り置きは避ける
（冷暗所保存では2週間程度使用可能）



←アルミホイル
などで覆う

○「混ぜるな危険！」他の薬剤と併用しないこと！
酸性のものと混ぜると塩素ガスが発生して危険！



【おまけ】消毒用エタノール

取り扱い時の注意点

- ノロウイルスには、**効果がない！**
- **火気厳禁**
- **汚れが残っていると効果が弱い**
- **水分が残っていると効果がない** → **ぬれた手には消毒効果がない。**

注意

- 消毒効果が高いのは、**70%以上95%以下**

市販されているアルコール製品の中には、70%未満の物もあるので注意。
(その場合、「消毒用」とは記載されていないので、使用前に確認してください。)

「70%以上」を確認してください！

(これより濃度が薄いと、効果も薄いです。)



**適切な消毒で
感染症対策を実施してください**

